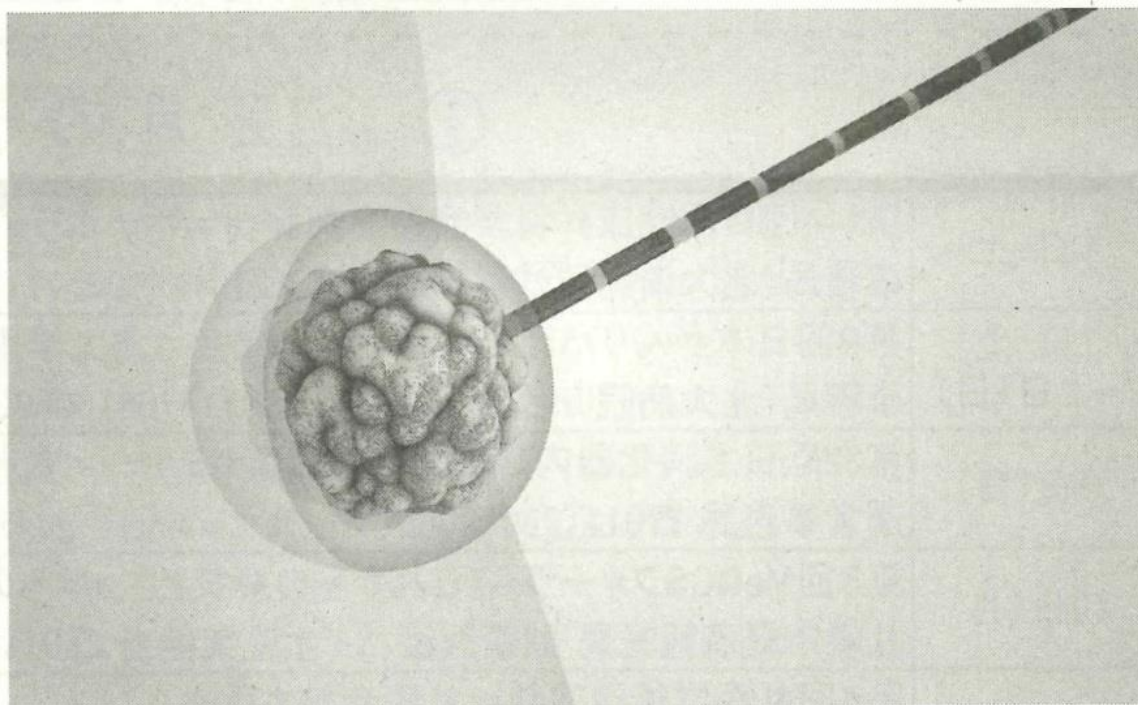


肝臓がんにMWA

転移性にも有効

製鉄記念
室蘭



大きく球形に近い焼灼が可能になった

室蘭市の製鉄記念室蘭病院（松木高雪理事長、前田征洋院長・347床）は、同市で唯一、肝臓がん治療にマイクロ波アブレーション（MWA）を取り入れている。2017年11月の導入からこれまで2例に実施し、近く3例目を予定している。

同病院は肝臓がんに対してインターベンシヨンラジオロジー（IVR）を積極的に行っており、18年度からは診断能向上に向け、CT、MRI画像を取り込み、リアルタイムで任意の断面を表示できる超音波装置を導入。16年からは可変型ラジオ波焼灼術（RF A）を開始するなど、診断・治療の充実を図っている。

新治療のMWAはRFAに比べて痛みが少なく、10分程度で最大4cm径の球状の焼灼が可能。血管に近い腫瘍や、転移性肝がんでも効果が期待できる。